

真珠産業における生産から販売までオール三重体制強化事業

渥美貴史・岡野健次・坂下奨悟・竹内泰介

目的

本事業では、水産研究所の陸上水槽等を用いて、水温等の温度管理を実施しながら稚貝を生産し、真珠養殖業者へ秋季に試験供給を行うことで、近年のアコヤガイ稚貝のへい死による母貝やピース貝の供給不足に対する県内母貝・ピース貝の供給体制の強化を目的とする。

方法

母貝については、英虞湾系統のアコヤガイ（以下、貝）の閉殻力を昨秋に測定し、閉殻力の強い貝を親となる貝（以下、親貝）とした。6月4日および6月11日に親貝を用いて採卵した。

ピース貝については、閉殻力の強い英虞湾系統の貝の中から黄色度が低いものを親貝として用い、6月11日および6月18日に採卵した。

幼生の飼育は、水産研究所内で100L水槽、200L水槽および500L水槽を用いて行った。水槽に収容した幼生には、パブロバ・ルテリ (*Pavlova lutheri*, 以下パブロバ) を給餌した。初日の給餌量は5,000細胞/mlとした。給餌については、前日の給餌量から当日計測した残餌量を差し引いて摂餌量を算出し、摂餌量に合わせて給餌量を増やした。採苗器への付着後は、屋内3t水槽でパブロバを与えて9月まで飼育した。また、採苗器へ付着させた稚貝の一部は8月に尾鷲水産研究室所有の生簀に運び、尾鷲湾で垂下飼育した。9月上旬に稚貝を計数し、9月5～

20日の間に配布希望者に配布した。

結果及び考察

母貝について、6月4日は英虞湾系統の雌4個体、雄5個体を用いて切開法で受精させ、D型幼生650万個体を得た。採卵から34～44日目に着底した稚貝を付着器に付着させた。6月11日は英虞湾系統の雌6個体、雄3個体を用いて切開法で受精させ、D型幼生457万個体を得た。採卵から38～45日目に着底した稚貝を付着器に付着させた。

ピース貝については、6月11日に英虞湾系統の雌2個体（右殻の平均黄色度20.7）、雄1個体（右殻の平均黄色度10.3）を用いて切開法で受精させ、D型幼生607万個体を得た。採卵から36～45日目に着底した稚貝を付着器に付着させた。6月18日に英虞湾系統の雌2個体（右殻の平均黄色度22.1）、雄1個体（右殻の平均黄色度16.8）を用いて切開法で受精させ、D型幼生347万個体を得た。採卵から34～44日目に着底した稚貝を付着器に付着させた。

付着後、稚貝は屋内3t水槽で配布まで飼育し、また稚貝の一部は尾鷲湾で飼育したところ、どちらも9月上旬には配布サイズの殻長4mm以上に成長した。

結果として、9月中に母貝7万個、ピース貝2.5万個を生産し、配布希望者に配布した。